

# 海外輸出プロジェクト 始動！

～世界の名酒に負けない泡盛の魅力を発信～

黒麹の源流は沖縄にあり

# 琉球泡盛

## 600年の歴史

中興泡盛協会、日本酒の心伝承会です。泡盛を愛用しての酒文化を伝えます。

RYUKYU AWAMORI BREWING PLACE MAP

● 北部地区 ● 南部地区  
● 中部地区 ● 宮古島地区  
● 先島地区 ● 八重山地区

泡盛の美味しい飲み方

美味しさいろいろ

- ◆ 水割り  
泡盛のスタンダードな飲み方。喉涼し、喉潤い、喉の乾きを和らげるのに最適です。
- ◆ オレンジ・ソーダ  
泡盛ならではの爽やかな香りと味を兼ね、さわやか、清く爽やかな飲み物になります。
- ◆ カクテル  
無類の組み合わせ、カクテルのベースとしても人気です。夏にぴったりの飲み物です。
- ◆ 炭酸割り  
爽やかな飲み口に泡盛の香りと味を兼ね、喉潤い、喉の乾きを和らげるのに最適です。

沖縄県酒造組合

〒900-0001 那覇市港町2-8-9 TEL.098-668-3727

中興泡盛協会 広報デスク

「泡盛百科」

泡盛の全泡盛酒造と銘柄情報を網羅した「泡盛総合情報サイト」です。ニーズに合わせて検索できる泡盛データベースを備え、泡盛の知識を深めるためのコンテンツや最新のイベント情報など、日本酒の人の泡盛を愛する気持ちを情報を通して、泡盛を知りたい、泡盛を愛する方に、泡盛を愛する方へ提供していきます。



内閣府では、沖縄の貴重な地場産業である  
泡盛製造業の活性化を図るため、

宮腰光寛内閣総理大臣補佐官を先頭に、

官民一体となって泡盛の輸出を促進する

「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」を展開しています。



▲第1回プロジェクト会合の様子

## 泡盛プロジェクト 立ち上げ



泡盛製造業は、離島を含む沖縄の地域経済や雇用を支える重要な産業ですが、出荷量が13年連続で減少するなど厳しい状況に置かれています。

一方、政府は、国家戦略として、「2019年までに農産物・食品の輸出額1兆円」という目標を掲げていますが、海外で一定の認知度を得ている日本酒など他の日本産酒類に比べ、泡盛の輸出についてはまだこれからという状況です。

このような状況を踏まえ、宮腰光寛内閣総理大臣補佐官の提唱により、本年1月に「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」（以下「泡盛プロジェクト」）を立ちあげ、泡盛酒造所が主体となって行う海外へ

の販路開拓などに向けた取組を官民一体となって後押しすることとなりました。

## 輸出倍増計画策定



泡盛プロジェクトには、沖縄県酒造組合のほか、プロジェクトの目的に賛同する酒類、経済、観光などに関係する団体・企業、学識経験者、沖縄県、さらに、内閣官房、内閣府、国税庁、外務省、農林水産省、観光庁、日本貿易振興機構などの関係府省・機関が参加しています。

1月及び3月には、泡盛プロジェクトの始動に向けて設立準備会合が開催され、顧問に宮腰内閣総理大臣補佐官、会長に小泉武夫東京農業大学名誉教授、副会長に玉那覇美佐子沖縄県酒造組合会長（当時）が選任されました。

また、設立準備会合では、泡盛の輸出量を平成32年（2020年）までに70キロリットルにする「輸出倍増計画」【図1】を泡盛プロジェクトの目標として定め、それに向けたプロジェクト会員の取組を明らかにする「行動計画」【図2】が定められました。

沖縄を訪れた外国人観光客数



▲第1回島酒フェスタにおける「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」の始動宣言

▼島酒フェスタでの国内酒類商社との輸出相談会（ジェトロ沖縄・沖縄県酒造組合）



は6年連続で過去最高となるなど、海外における泡盛の認知度向上を図るには、今追い風が吹いています。

こうした中で、「行動計画」では、①訪日観光客をインフルエンサーなどとして活用するための泡盛ファンづくりや情報発信の強化を図る「訪日外国人に対する視点」及び、②ウォッカ、ジンなどと並ぶ世界的な「ハードリカー」として、欧米市場などへの浸透を図る「海外市場に対する視点」から、クルーズ船向けPR、酒蔵ツーリズムへの取組の強化、海外への販路拡大に向けた支援策の実

～海外輸出拡大に向け業界の数値目標70KL“倍増”実現!～

### 行動計画

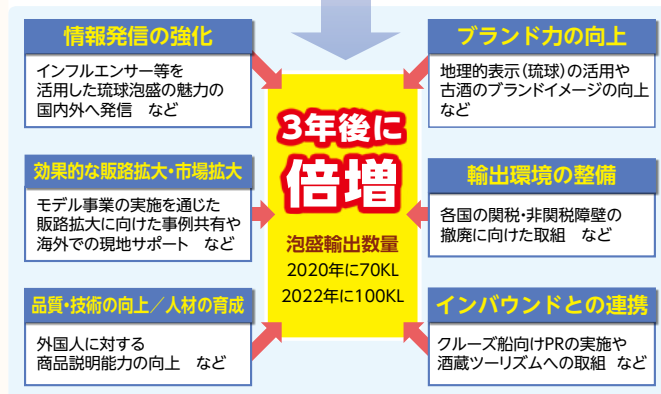
- プロジェクト会員(個人及び団体)が、「訪日外国人」と「海外市場」の2つの視点と、6分野53の取組で泡盛酒造所の海外輸出を官民一体となつて後押し

### 【視点1】訪日外国人に対する視点

- 特に中国本土をはじめとするアジアからの観光客に泡盛の魅力を効果的に伝え「泡盛ファン」を増やす
- 沖縄県内でスムーズに泡盛を「観光土産」として購入できるようにする
- 帰国後も「泡盛ファン」(＝インフルエンサー)として泡盛の普及につなげる

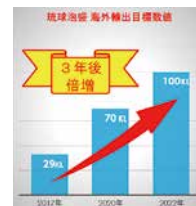
### 【視点2】海外市場に対する視点

- 泡盛は、ウオッカ、ジン、テキーラ等と並ぶ世界的な「ハードリカー」としての可能性が秘められており、北米、欧州の市場への浸透を図る
- 海外の市場への浸透を図るため、ターゲットを絞ったプロモーションを進め、泡盛の認知度向上に向けた取組を進める



### 目的

琉球泡盛の海外展開を促進するため、官民の関係者一体となった取組を推進  
**(目標値)** 平成32年(2020年)70KL、  
 平成34年(2022年)100KL  
 ※現状(平成29年(2017年))29KL



### 構成

目的に賛同する関係団体、地方公共団体、関係府省などで構成

【顧問】宮腰 光寛 内閣総理大臣補佐官  
 【会長】小泉 武夫 東京農業大学名誉教授  
 【副会長】佐久本 学 沖縄県酒造組合会長  
 【委員】

(関係団体等)

沖縄県酒造組合、沖縄県卸売酒販組合連合会、沖縄県小売酒販組合連合会、  
 沖縄県商工会連合会、沖縄県商工会議所連合会、沖縄県産業振興公社、  
 沖縄県ホテル協会、沖縄観光コンベンションビューロー、泡盛マイスター協会、  
 日本ソムリエ協会、沖縄県物産公社、沖縄振興開発金融公庫 ほか

(地方公共団体・関係府省)

沖縄県、内閣府、国税庁、内閣官房、外務省、農水省、観光庁、JETRO

### 取組内容

- 琉球泡盛の輸出促進に関する取組の具体化・工程表の策定
- 各構成員による関連プロジェクトの実施、及び各プロジェクト間での連携推進
- プロジェクト会合を開催し、構成員相互の取り組みについて情報交換

### 具体的な関連プロジェクトの例

- 在外公館等を活用したPRイベントの実施
- 海外の大型展示商談会への出展などビジネスマッチングの場を提供
- 泡盛の海外プロモーションに係る調査事業を実施

### プロジェクト会合

平成30年 1月29日：第1回準備会合(那覇市内)  
 平成30年 3月 7日：第2回準備会合(那覇市内)  
 平成30年 4月13日：会合(那覇市内)  
 平成30年 4月14日：設立記念イベント(那覇市内)

施など、6分野53の取組が盛り込まれています。

**プロジェクト始動**

4月13日、「第1回琉球泡盛海外輸出プロジェクト会合」が開催されました。

意見交換の中で、田崎眞也日本ソムリエ協会会長から、泡盛の風味が貝類や魚卵系の食材との相性がいいので食中、食後も含めて楽しめるようにしてはどうかといった提案がありました。

また、日本酒の輸出に取り組む久慈浩介(株)南部美人代表取締役社長からは、自身の経験に基づく具体的な輸出戦略の提言(次ページ講演会の概要を参照)があり、さらに、アメリカ西海岸で泡盛の販売に取り組んでいる沖縄ブルーオーシャンフーズの渡嘉敷祐介代表からは、「糖質ゼロ」、「低カロリー」、「血栓予防効果がワインの2・4倍」など、泡盛の「売り」を整理して認知度を上げることが重要であるとの提言がありました。

今後、これらの提言なども参考にしながら行動計画を実行していくことが確認されました。



さらに、4月14日、15日に奥武山公園で開催された「第1回島酒フェスタ」の開会式では、小泉泡盛プロジェクト会長から、泡盛プロジェクトの始動が宣言されました。

**沖縄総合事務局の取組**

**(1) 沖縄酒類製造業の自立的経営促進事業**

酒造所が主体となつて行う海外への販路開拓などに向けた先進的・モデル的な取り組みとして2件を選定し、支援しています。

① 「欧米での琉球泡盛のハードリカー分野における販路拡大に向けたブランド構築事業」  
 「海外マーケット向けボトル製作、アイスランドでのプロモーション、県産長粒米による泡盛の製造などの取組(Blueship 沖縄、忠孝酒造、瑞泉酒造、久米島の久米仙)」

② 「中国輸出&インバウンド展開事業」  
 「中国マーケットに合わせ、泡盛原酒(53度)の新商品開発・市場開拓などの取り組み(ピンコウHD、瑞穂酒造、南島酒販)」



## (2) ハードリカープロジェクト

### (泡盛海外展開の支援)

酒造所などがアイスランドを中心に実施しているブランド構築、市場ニーズにマッチした商品開発・ブランディングや泡盛カクテルコンペティションによる海外展開の取り組みを支援しています。

## (3) 沖縄県産長粒種等を利用した琉球泡盛海外輸出の拡大検討

県産長粒種等を利用した琉球泡盛の海外輸出の拡大を目指し、農林水産省、農研機構、国際農林水産業研究センター、内閣府、国税庁、沖縄県、J A おきなわ、沖縄県酒造組合などの関係者が一体となって諸課題の解決に向けた取り組みを進めます。

## そのほか官民の主な取組



○沖縄国税事務所は、歴代の「泡盛の女王」を「泡盛クイーンズサポーター」に委嘱し、第1回島酒フェスタなど各種イベントへの参加を通して泡盛の消費拡大を支援しています。

○外務省は、シンガポール、イン



▲第19回タイフェスティバル東京2018の様相

沖縄総合事務局ホームページ  
「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」も併せてご覧ください。

<http://www.ogb.go.jp/soumu/017012>

ドに次いで、在香港日本国総領事館主催の泡盛プロモーションイベントを開催するなど、泡盛の魅力をアピールしています。

○県酒造組合と日本貿易振興機構（ジェトロ）は、東京都で開かれた「第19回タイフェスティバル2018」での泡盛試飲ブースの設置など、泡盛の販売促進に向けた活動をしています。

○J A L グループは、「國酒・琉球泡盛応援プロジェクト」として、羽田と成田空港のJ A L ラウンジで泡盛を提供している（6月中）ほか、国内線（6月）、国際線（7～8月）の機内ビデオで泡盛の番組を放映しています。

## 講演会を開催しました

### ～日本酒の海外戦略を学ぶ～

総務部では、5月15日、岩手県で百年以上の歴史を持つ日本酒の蔵元「南部美人」の久慈社長をお招きし、「酒造りへの情熱、挑戦」～泡盛人材育成、海外展開に向けて～と題した講演会を泡盛事業者、局職員を対象に開催しました。久慈社長から、世界はワインの物差しで日本酒を評価するので、マリアージュ（料理との組み合わせ）とテロワール（産地の特性）が大切であり、広く世界

で飲まれるためにはこれら要素が欠かせないとの話がありました。

一方、泡盛は琉球王国時代に来訪者に振舞われた国酒であり豊かな歴史、物語性に富んでいること、長期間熟成すること、まろやかで、甘い香りを醸し出すユニークな酒であることから、世界で通用する大きな可能性を秘めていると、示唆に富んだお話を伺いました。



久慈 浩介 くじ こうすけ

㈱南部美人 代表取締役社長 五代目蔵元 岩手県出身。東京農業大学卒。南部美人の純米酒は国内外の鑑評会で金賞を何度も受賞するなど高い評価を得ており、全国の酒蔵に先駆けて海外進出に取り組む。2017年、世界的なワイン品評会、インターナショナル・ワイン・チャレンジ（IWC）の日本酒部門で最優秀賞を受賞。

